

ものづくり

manufacturing



ニット用特殊針を使用しての仕上げの作業。

つくり手の想い。

昭和21年の創業以来、自然豊かな南アルプス山脈の麓で、ベビーこども服の専門メーカーとして、小林メリヤスは国内生産を続けています。特に安全性、衛生面、高品質が求められるベビーニットの分野では、草分け的存在であり、厳しい生産管理体制、ものづくりへの情熱、職人の熟練した技術は、〈cotocin〉の商品に余すところなく生かされています。

最先端のCADシステムとコンピュータ制御のヨコ編み機により、1本の糸から多様な編み地が生まれますが、40台の編み機を使い分け糸の特性に合わせた細やかな調整は職人の感覚によるもので、風合いの良さを最大限に引き出します。

工場の一面では、50年以上経過しても尚、現役の機械たちが正確なリズムで編み地をうみだしています。紐編み機は国内でもほとんど現存しない貴重な機械ですが、ひとつひとつの部品を大切にメン

テナンスしながら使い続けています。編みあがった各パーツは次の工程に進める前に安定した状態にするため、〈洗い・乾燥〉そして、高圧スチームによる〈セット〉を最適に施します。それにより裁断・縫製後の仕上がりに安定感が生まれます。成型編みという形どられた編みも近年増えている中でも、正しく丁寧に裁断する作業を通して、縫製に進められます。

熟練の職人が22種ものミシンを操り、きれいに素早く縫製して行く中で、ニット独自の〈ヘリンキング〉があります。非常に細かい編みの目をひと目ずつ正確に針に刺して衿などを付けていく作業です。ニットならではの編み糸の処理など丁寧な仕上げ、検品、最終蒸気セットを経て、商品として仕上げられます。

古き良き伝統と最新鋭のハード、そして、つくり手の技と情熱の融合。それらを大切に、日本のものづくりを継承しております。



1_ 編み地の風合いを生かして適正機種を使用。2_ 細部へのこだわりに合わせてミシンを使いこなして。3_ 半世紀以上筒状のループを編み続ける古い機械。4_ 熟練技が求められるリンク作業。5_ 縮みなどが後から起こらないよう編み地安定のために。6_ 高圧スチームを当てながら編み地の調整を行ないます。

2
3
6
1
4
5